



郵便
報知新聞
 第七百二号

七月十八日朝曇の晴て昼後俄の海暑
 強うけぬ敷寄屋町の絃妓天野屋あふ
 たい浅草三社祭の見物より帰るところ
 苦しやと帯も着物も脱棄て燃立とき
 緋の湯多れ往來近き椽端に涼しけ
 風を松葉朶太柄の團扇揺りてこき
 とく呉ろ白く湯と云ぬわりのせき
 自慢をりも折とく巡査だこがめ
 其ま引立行うんとせせし線近
 辺の人々立入り切はなて浴衣細
 帯斤祖脱違式の罪も変せし
 ハ實小寛猛中を得し保護乃
 道のちりごり

三遊亭圓朝記



何事か御覧なす

六種
 大正

彫工銀

三遊亭圓朝

